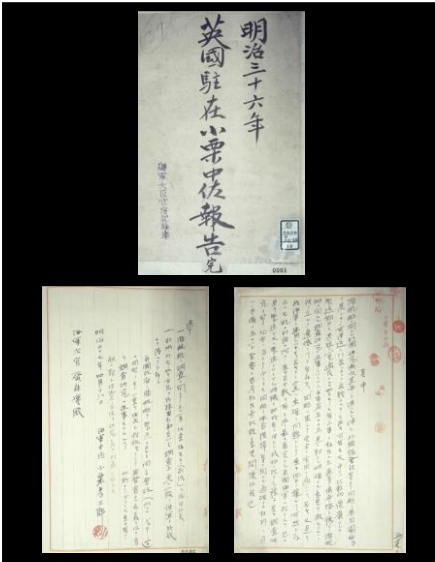


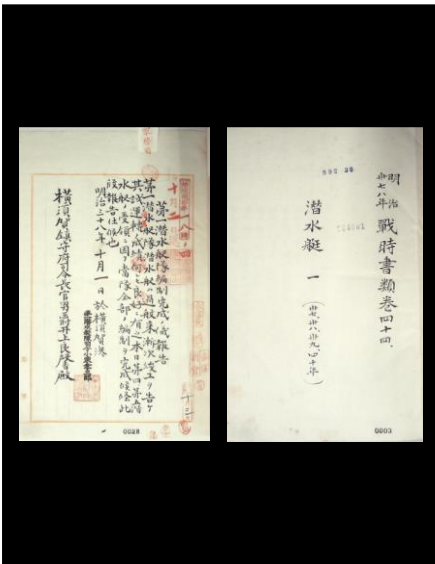
平成29年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎月一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 おぐり こうざぶろう
小栗 孝三郎 1886～1975年 》
—石川県出身の海軍大将—



英国駐在小栗中佐報告 (登録番号：⑩外駐員報-M30-10-10)

小栗孝三郎大将は、明治22年4月海軍兵学校(第15期)を、明治34年5月海軍大学校を卒業後、海軍省軍務局長、舞鶴鎮守府司令長官などの要職を務めます。その間明治36年2月から明治37年4月まで英国駐在を命ぜられた小栗は、欧州における潜水艇の発達を目の当たりにし、日本海軍でも速やかに潜水艇を採用して研究する必要があるとの意見書を海軍省に提出する手続きをします。手続き中に日露の開戦となり帰朝を命ぜられた小栗は軍令部参謀となり、改めて意見書を提出します。この史料には当時の意見書(明治37年4月18日付)が綴られていて、潜水艇について「我邦ニ於テモ予メ是力調査研究ヲ努メ必要ニ臨ミテ少クトモ同艇ノ採否選択等ニ関スル適確ナル材料ヲ獲ルノ準備ヲ為サンコト緊要ト思考致候条此段意見開陳仕候也」と記されています。



明治三十七八年戦時書類 潜水艇 (登録番号 ⑪日露戦書-M37_38-44-602)

日露戦争中、旅順港口を封鎖行動中の戦艦2隻他多数の艦艇を失った日本海軍は、軍令部参謀小栗中佐の起案になる艦艇緊急補充(装甲巡洋艦の国産と潜水艇の建造)を提議、明治37年5月23日の閣議において協賛を得たことから潜水艇5隻を米国から購入し、横須賀海軍工廠において組立工事を開始します。明治38年10月1日、完成した1号艇から5号艇をもって第1潜水艇隊を編成、小栗中佐は第1潜水艇隊司令兼第1号艇長に補せられ、ここに日本海軍初めての潜水部隊が誕生します。同年10月23日、連合艦隊の凱旋観艦式に参加した第1潜水艇隊は、明治天皇の御前において潜航を天覧に供します。この史料には、小栗より横須賀鎮守府司令長官男爵井上良馨大将へ宛てた「第一潜水艇隊編制完成ノ儀報告」などが綴られています(他に「潜水艇史話」④潜水艦-130)。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課
専用線：8-6-29171、29175 (史料紹介コーナーのみ29651)
外線：03-3260-3011
FAX：03-3260-3034 ※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.mod.go.jp>